

## 平成 22年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

## 1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)     特定共同研究(B)     特定共同研究(C)     一般共同研究  
 地震・火山噴火予知研究     施設・実験装置・観測機器等の利用  
 データ・資料等の利用     研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010 - C - 02

## 3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：地球深部の構造とダイナミクス英文：Study of structure and dynamics of the Earth's deep interior4. 研究代表者所属・氏名 (独) 海洋研究開発機構・深尾良夫  
(地震研究所担当教員名) 歌田久司

## 5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
大和田 毅	気象庁・主任研究官	参加	2010.4.1-2011.3.31	365	なし

## 6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：グローバル観測，海底長期観測，スタグナントスラブ，トモグラフィー

## (1) 陸上観測点の観測機器の保守作業

海半球観測ネットワークによる，安定した継続したデータ取得を目標に，各観測点の保守作業を実施した。全般に良好な観測データが得られている。

## (2) 海底機動観測

フレンチポリネシアや北西太平洋などにおいて，機動的観測を実施した。

## (3) データ解析・解釈

特定領域研究「スタグナントスラブ」で実施した海底機動観測（海底広帯域地震及び海底電磁気観測それぞれのべ40カ所における1年間にわたる長期観測を3年間繰り返す）によって得られたデータの解析を進め，結果を論文にまとめて公表した。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト\*<sup>1</sup>または2000～3000字の報告書）

(\*<sup>1</sup>論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

Baba, K., H. Utada, T. Goto, T. Kasaya, H. Shimizua, and N. Tada, Electrical conductivity imaging of the Philippine Sea upper?mantle using seafloor magnetotelluric data, *Phys. Earth Planet. Inter.*, 183, 44-62, 2010. (3)

Isse, T., H. Shiobara, J.-P. Montagner, H. Sugioka, A. Ito, A. Shito, T. Kanazawa, K. Yoshizawa, Anisotropic structures of the upper mantle beneath the northern Philippine Sea region from Rayleigh and Love wave tomography, *Phys. Earth Planet. Int.*, 183, 33-43, 2010. (3)

Adam, C, Yoshida M, Isse, T, Suetsugu, D, Fukao, Y, Barruol, G. South Pacific hotspot swells dynamically supported by mantle flows. *Geophys. Res. Lett.*, 37, L08302, 2010. (3)